

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501326		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホーム コスモス松陵 1階うぐいす		
所在地	仙台市泉区松陵1丁目28-1		
自己評価作成日	R2年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、自然豊かな環境に恵まれ、うぐいすの鳴き声とたらの芽の天ぶらで春を迎えつばめが巣を作りヒナを育て、セミの鳴き声で暑さを実感し秋には芋煮会や紅葉を楽しみながら干し柿を作り冬は静かに雪化粧を眺めたりと四季を肌で感じることができます。畑では、トマト・キュウリなど育ておらずに加え、収穫の喜びを味わっていただいています。医療面においては往診クリニックと連携し24時間対応で診察が受けられる体制を整えています。また職員は、ご家族様と地域とのつながりを大切に、家庭的な雰囲気の中ユニットの理念「喜笑添結」(きしょうてんけつ)＝共に喜び・笑い合い・寄り添い・縁を結ぶをモットーに安心して過ごすことができるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは松陵地区と鶴が丘地区の境にあり、四季折々の季節を感じることができる自然豊かな環境の中に位置している、3階建ての内1・2階部分を使用した2ユニットで運営している。特筆できることの一つに、コロナ禍でほとんど対面開催ができない運営推進会議を、工夫しながら対面開催に近い成果をあげていることである。報告資料を送り意見を求めることに留めず、「アンケート」としてテーマを決めて委員に意見を求める方式を取り入れたことで、意見交換がスムーズに行われた。これはホームと委員との関係性が日常的に培われた結果である。もう一つは、食事提供についてで、法人の方針で調理員が各ユニットに専属で配置されたことで、バラエティー豊かなメニューが手作りで提供できていることである。職員は2時間毎にタブレットに入居者の様子や言葉を記録し、ケアカルテが作成され、介護計画に反映されている。また、夜間は最先端のロボットテクノロジーを取り入れた見守り機器を活用しており、ICT化が進んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス松陵 ）「ユニット名 うぐいす 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念とは別に、ユニット毎に理念を作成、掲示し毎日ミーティングで唱和。スタッフ間で共有し実践に活かしている。 (ケアで迷ったときは理念を振り返る)	ユニット毎の理念「喜笑添結」「まごころ」を、年度末に職員会議で振り返り確認している。玄関に掲示し、毎日のミーティングで唱和している。職員は理念を年頭に、入居者がその人らしく笑顔で生活できるよう日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、今までおこなっていた交流会を控えている。	町内会に加入している。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で地域との交流は中止となったが、幼稚園児と手作りプレゼントの交換を継続して行い、繋がりが途切れないよう努めている。こうした企画をはじめ、地域住民に認識されるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、今までおこなっていた交流会を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しているが、今年は1月ののみ会議形式で実施。他は、アンケートを郵送し、意見をいただき議事録に残していた。	コロナ禍で対面会議開催は1回のみであった。対面会議の代替えとして、ホーム報告送付に加えて、テーマを決め意見を求める方法を取り入れて取り組んだ。その結果、各委員からは積極的な意見が毎回出され、ホーム運営向上に役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課へは毎月広報誌を送付、また保護課からも状況把握の訪問あり。疑問点が生じた時には市町村の担当者から助言をいただいている。認知症介護指導者を務めている。	区には報告と広報紙を毎月送付している。区からはコロナの最新情報や感染予防対策についての指導と共に消毒液などの配布があった。地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて入居者情報などのやり取りが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に勉強会をおこない、各研修に参加した資料を基に拘束のないケアを実践している。さらに身体拘束等適正化委員会を立上げ適正化のための指針を基に取り組みをおこなっている。日中施錠はしていない。	3ヶ月毎、身体拘束廃止委員会を開催している。職員から出された「検討シート」をもとに、発生理由や背景を検討し対応策を決めている。「ちょっと待って」など、なにげない言葉掛けがグレーゾーンであると共通認識に努めながら、改善に繋げている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを基に勉強会をおこない、各研修に参加した資料を基に学び、知識を深めている。独自の取り組みとしてお互いの長所を認め合い質の向上に努めている	ホーム内ではグレーゾーンも含め、事例は発生していない。何が虐待にあたるのかを具体的な例を挙げ、研修を行い職員の理解を深めている。職員同士、相手の良いケアを認める「ハート・スマイル」の取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した資料を基に勉強会をおこなっている。ホーム利用者様に関しては身元保証人がご家族様であり、良好な関係が保っている。希望により支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際は、管理者と関係職員同席のもと懇切丁寧な説明を心がけ理解を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	皆様の声箱を設置(意見をお聞かせ下さい)意見や要望を外部へ表せる機会を設けるため、第三者委員を選出している。普段から面会に来る家族が多いので意見を伺っている。	コロナ禍のため、家族との面会は感染予防を徹底しガラスを隔てて行い、意見・要望を聞いている。来訪できない家族からは、電話や便りで細かな情報を伝え、電話で意見・要望を聞いている。第三者委員を地域住民に委嘱している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標設定シートを基に年2回の面談で各自の意見や目標を聞き、反映できる環境を整えている。また外部研修は仕事の一環として出席し、学ぶ機会を設けている。	ホームでは「環境」「行事・食事」「事故対策」の3つの委員会を設け、全職員で役割を担い運営改善に反映している。職員の資格取得には補助制度を設け、キャリアアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施。向上心を持って働けるよう配慮している。またキャリアパス制度も導入し資格取得のための職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や定期職場内研修スキルアップ研修等への参加及び定例会議でのマニュアル勉強会。また研修後の伝達報告会にて情報の共有を図っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、今までおこなっていた交流会を控えている。	コロナ禍のため同業者との交流はできていない。例年は同法人内の3つのグループホームと協力して企画し、入居者同士の交流を行ってきたが、今年はできていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者、居室担当者が中心となり本人や家族から今後の生活について要望等を伺いながら信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し寄り添い、支えていくことで信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みから入居までの時間がある場合は、待機期間中に必要なサービス(訪問介護等の在宅サービス)についてパンフレット等を用いて情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で食事・掃除・洗濯等共同生活を送ることでお互いに助け合い、個々の考えや価値観に触れ理解し合える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際「今日の私・緊急対応ファイル」より近況を報告し、家族の話に耳を傾け一緒に本人を支える環境作りに努めている。また月1回手紙と広報誌でホームでの生活の様子を伝えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話で交流を続けられるよう対応している。テレビ番組から出身地の話題やその日のニュースを通して馴染の場所や人を思い出していただけるよう努めている。	コロナ禍以前は、家族と馴染みの店に食事に行ったり、馴染みの場所にドライブで出掛けていた。入居者との日常会話では、行ってみたい所や会いたい人などの話題も出ており、自宅に帰りたいと話す入居者もいる。家族や友人とは、電話や手紙で交流を続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が歌会やお茶、テレビ、散歩等で交流する機会を設け、利用者同意の関係を把握し、孤立しないように関わり支え合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報の提供等をおこない支援に努めている。ご逝去された後も運営推進会の役員としてご協力を頂いている。また、ホーム花壇の手入れをおこなってくださる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々会話の中から思いや希望を把握し言葉で表現することが難しい方については表情や反応を見ながら、家族の意向も伺いケアプランに反映させ、思いに添えるよう努めている。	職員はケアの実践の中で、タブレットに入居者のつぶやきや様子を入力している。その情報が2時間単位で、一人ひとりの「ケース記録」に反映されている。また、サービス計画書には「私の声」として記載され、介護計画を作成する際の大切な情報源になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活状況を伺い情報として共有して、ケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を個別に記録(今日の私)し情報共有すると共にカンファレンスで話し合い現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス内容を毎日チェック、日々情報を共有し、毎月カンファレンスで話し合いケアに活かしている。また本人や家族の意向、主治医と連携を図りより良い介護計画作成となるよう努めている。	3ヶ月毎のサービス計画の見直しの際に、家族から要望を聞いている。サービス内容の実施状況を毎日「○」「×」でチェックし、それらを踏まえて毎月のカンファレンスの場で話し合い、達成状況を確認している。常勤の看護師の意見も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌(今日の私)に個人の様子を記録する他に、スタッフ間で連絡ノートを活用し情報の共有に努め介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態・状況に合わせ随時モニタリングをおこない、介護計画を作成、その方の希望に沿った外出計画も立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回地域のサロンへの外出や近隣スーパーへの買い物を通し、社会との交流を図り、またホームへ配達に来る食材業者ともなじみの関係を築いていたがコロナの関係で自粛している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点で本人、家族と相談し適切な医療が受けられるよう支援している。24時間対応可能な往診クリニックと連携を図っているが、専門的な受診が必要な場合は、家族と相談し対応している。	全入居者が、2つの協力医療機関のどちらかをかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。かかりつけ医とは、24時間対応の連携体制を整えている。看護師が常勤して健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状況と違いが見られた際は常勤看護師に伝え、様子を把握し適切なケアや医療を受けられるよう協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、緊急対応ファイルを用いて様子や経過を情報提供している。入院中の状況も家族や面会を通して把握。退院にあたり今後の生活について情報をいただき、ケアの参考にしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期の方針について説明。家族、主治医、職員を交えてサービス担当者会議を実施。ホームでできることを説明。本人、家族の意向を伺い、主治医と連し、終末期の介護や看取りもおこなっている。	入居時に「看取りに関する指針」を家族に説明し同意を得ている。終末期に入った際には、医師、看護師、職員で話し合い、看取り介護のための介護計画を作成し、家族に説明し改めて同意を得ている。家族が面会しやすいよう、玄関に近い部屋に移動するなど配慮している。入職時には、かかりつけ医の資料を用い研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルを参考にした勉強会を実施。看護師の指導の下、緊急時に備えている。仙台市消防局 救急課 より要請があった「救急連絡シート」を作成し備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を実施している。毎月11日を防災の日とし、備品点検をしている。また地理的な制約もあるが隣接の鶴が丘地区住民と協力体制を築いている。	年2回、夜間想定避難訓練を実施している。夜間帯は各ユニット1人体制のため、運営推進会議メンバーを中心に地域住民の見守りについて要請し連携を図りながら取り組んでいる。今年はコロナ対策に力を入れ感染予防を徹底している。年2回、業者が設備点検を行い、備蓄は5日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。プライバシー保護については年間研修計画の中に取り入れ勉強の機会を設けている。呼び方については本人の意向に添って苗字や名前で呼んでいる。	プライバシーの確保の研修は身体拘束廃止についての研修会と一緒に開催している。また、今年度、仙台市がWEBを使った研修会を開催し、事業所としても参加した。入居者が笑顔で過ごせ、不快な思いをしないよう、一人ひとりに合わせた声掛けや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いを傾聴すると共にケアプランに反映。言葉で表現することが難しい方については表情や様子から想いをくみ取り自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活において一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容サービスを利用しているが自肅要請の期間は、ホーム職員が対応。日々清潔保持に努めるとともに季節に応じた身だしなみやおしゃれを楽しむことができるような支援をおこなっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や好みを取り入れた食事を一緒に調理し食事を楽しんでいる。	献立は、法人の栄養士が作成し、各ユニット毎に配属された専任の調理員が調理をしている。法人が作成した献立を基に、ユニット毎に収穫した野菜を穫り入れるなどアレンジもしている。楽しい食事ができるよう企画し、誕生会やセレクトメニューなども毎月実施している。コロナ対策として、食事は横並びにするなど工夫し感染予防に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、栄養バランスの摂れた食事を提供している。また、水分量を把握し好みに応じた飲み物を提供。むせ込みが見られる方には、トロミを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を保っている。治療が必要な時は往診歯科による診療を受けている。その方に合った舌ブラシ、360°磨ける歯ブラシを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握。タイミングをみてトイレ誘導をおこない生活のリズムを整えている。その方の動作や表情、しぐさから状況を把握し支援をおこなっている。	トイレ表示を大きくし、自立を促すため、タイミングを見ながらさりげない声掛けを行っている。夜間は最先端のロボットテクノロジーの見守り機器を活用し、居室での動きを把握し支援に繋げている。便秘予防には食事に乳製品を摂り入れ対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の運動や水分の摂取状況等を把握し快適な排便に繋がるよう努めている。管理栄養士の指導の下、食物繊維を多く含むメニューを取り入れている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望にて入浴が出来るよう対応している。入浴を拒む人は声がけを工夫しながらタイミングを見て声がけしている。また菖蒲湯やゆず湯など季節の楽しみも取り入れている。	入浴は週2回から3回を基本に、湯はかけ流しである。改修工事を行いリフト浴の機器が導入され、重度化した状態でも入浴を楽しめるようになった。菖蒲湯、バラ湯、ゆず湯など季節湯も楽しんでいる。拒否がある場合は、入浴の声掛けやタイミングを工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間は特に定めていない。夜間帯は間接照明にて安眠できるように配慮している。また不眠傾向の方に対しては日中の過ごし方を見直し、安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について理解できるよう処方箋をファイリングしている。また日付け名前を読み合わせし、再確認の上内服していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々個別アクティビティをおこない一人ひとりと接する時間を多く取れるように努めている。今年は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、ホーム内行事を主とし気分転換につなげている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、今までおこなっていた外出支援を控えている。	例年は、年間計画を立て外出していたが、コロナ禍で遠方への外出はできなくなった。気分転換にホーム周辺を散歩したり、裏庭で野菜を育てたり、ベランダで外気浴をしている。収穫した旬の野菜を食事に摂り入れみんなで楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方については家族の同意をいただいた上でホームで預り毎月収支報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月家族へお便りを書いたり、電話にて親族や友人とやり取りが出来るよう支援している。家族から電話をいただく事もよくある。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は皆がゆったりとくつろげるように工夫している。また整理整頓を心がけ季節を感じる事ができるような作品を手作りし掲示している。和やかに生活が楽しめるよう工夫している。	コロナ禍を考慮し、共用スペースでは「密にならない」「対面にならない」「1時間に1回の空気の入れ替え」「加湿」の4点にこだわって取組んでいる。リビングや通路にはソファが置かれ、みんなで過ごしたり、一人で過ごせる居場所も設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて入居者同士がくつろいだりコミュニケーションの場として過ごせるようソファ・テーブルを配置している。コロナ禍により向かい合わないよう席の配置工夫をおこなっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく安心して過ごせるよう使い慣れた馴染みの鏡や化粧品家族の写真を飾り回想法に役立てている。	居室のレイアウトは、一人ひとりの状態や車いす使用等に配慮しながらベッドなど配置している。基本的には持ち込みに制限はなく、入居者は馴染みのテレビやソファを持ち込み、自分の部屋としてゆったり過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室などは大きな文字で分かりやすく表記している。また、車椅子の方も手すりに沿って動くことができるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501326		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホーム コスモス松陵 2階ひばり		
所在地	仙台市泉区松陵1丁目28-1		
自己評価作成日	R2年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは緑に囲まれた静かな環境で、四季折々の花が咲き、小鳥の音が年中聞こえ燕が巣を作り、畑に苗を植え、開設当初から育ててきた梅の木や柿の木も沢山実をつけ自然の恵みと収穫の喜びを肌で感じ味わい、自分のペースでゆったりと過ごせる環境を整えております。

医療面においては往診クリニック協力の下、24時間対応で診ていただける体制を整えています。また、地域の一員として共に暮らし笑顔あふれる生活を大切に「気づき」「気配り」を心がけ家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごせるよう対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは松陵地区と鶴が丘地区の境にあり、四季折々の季節を感じる事ができる自然豊かな環境の中に位置している、3階建ての内1・2階部分を使用した2ユニットで運営している。特筆できることの一つに、コロナ禍でほとんど対面開催ができない運営推進会議を、工夫しながら対面開催に近い成果をあげていることである。報告資料を送り意見を求めることに留めず、「アンケート」としてテーマを決めて委員に意見を求める方式を取り入れたことで、意見交換がスムーズに行われた。これはホームと委員との関係性が日常的に培われた結果である。もう一つは、食事提供について、法人の方針で調理員が各ユニットに専属で配置されたことで、バラエティー豊かなメニューが手作りで提供できていることである。職員は2時間毎にタブレットに入居者の様子や言葉を記録し、ケアカルテが作成され、介護計画に反映されている。また、夜間は最先端のロボットテクノロジーを取り入れた見守り機器を活用しており、ICT化が進んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス松陵 ）「ユニット名 ひばり 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念とは別に、ユニット毎に理念を作成、掲示し毎日ミーティングで唱和。スタッフ間で共有し実践に活かしている。(ケアで迷ったときは理念を振り返る)	ユニット毎の理念「喜笑添結」「まごころ」を、年度末に職員会議で振り返り確認している。玄関に掲示し、毎日のミーティングで唱和している。職員は理念を年頭に、入居者がその人らしく笑顔で生活できるよう日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルス感染防止対策の為、今まで行っていた交流会を控えている。	町内会に加入している。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で地域との交流は中止となったが、幼稚園児と手作りプレゼントの交換を継続して行い、繋がりが途切れないよう努めている。こうした企画をはじめ、地域住民に認識されるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルス感染防止対策の為、今まで行っていた交流会を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しているが、今年は1月のみ会議形式で実施。他はアンケートを郵送し、意見をいただき議事録に残していた。	コロナ禍で対面会議開催は1回のみであった。対面会議の代替えとして、ホーム報告送付に加えて、テーマを決め意見を求める方法を取り入れて取り組んだ。その結果、各委員からは積極的な意見が毎回出され、ホーム運営向上に役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課へは毎月広報誌を送付。疑問点が生じた時には市町村の担当者から助言をいただいている。認知症介護指導者を務めている。	区には報告と広報紙を毎月送付している。区からはコロナの最新情報や感染予防対策についての指導と共に消毒液などの配布があった。地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて入居者情報などのやり取りが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に勉強会をおこない、各研修に参加した資料を基に拘束のないケアを実践している。日中施錠はしていない。	3ヶ月毎、身体拘束廃止委員会を開催している。職員から出された「検討シート」をもとに、発生理由や背景を検討し対応策を決めている。「ちょっと待ってて」など、なにげない言葉掛けがグレーゾーンであると共通認識に努めながら、改善に繋げている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを基に勉強会をおこない、各研修に参加した資料を基に学び、知識を深めている。独自の取り組みとしてお互いの長所を認め合い質の向上に努めている	ホーム内ではグレーゾーンも含め、事例は発生していない。何が虐待にあたるのかを具体的な例を挙げ、研修を行い職員の理解を深めている。職員同士、相手の良いケアを認める「ハート・スマイル」の取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した資料を基に勉強会をおこなっている。ホーム利用者様に関しては身元保証人がご家族様であり、良好な関係が保っている。希望により支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際は、管理者関係職員同席のもと懇切丁寧な説明を心がけ理解をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置。意見や要望を外部へ表せる機会を設けるため第三者委員を選出している。また普段から面会に来る家族が多い。	コロナ禍のため、家族との面会は感染予防を徹底しガラスを隔てて行い、意見・要望を聞いている。来訪できない家族からは、電話や便りで細かな情報を伝え、電話で意見・要望を聞いている。第三者委員を地域住民に委嘱している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標設定シートを基に年2回の面談で各自の意見や目標を聞き、反映できる環境を整えている。また外部研修は業務として出席し学んでいる。	ホームでは「環境」「行事・食事」「事故対策」の3つの委員会を設け、全職員で役割を担い運営改善に反映している。職員の資格取得には補助制度を設け、キャリアアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施。向上心をもって働けるよう配慮している。またキャリアパス制度も導入し資格取得に貢献している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や定期職場内研修スキルアップ研修への参加及び定例会議でのマニュアル勉強会。また研修後の伝達報告会にて情報の共有を図っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年は新型コロナウイルス感染防止対策の為、今まで行っていた交流会を控えている。	コロナ禍のため同業者との交流はできていない。例年は同法人内の3つのグループホームと協力して企画し、入居者同士の交流を行ってきたが、今年はできていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者、居室担当者が中心となり本人や家族から今後の生活について要望等を伺いながら信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し寄り添い、支えていくことで信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みから入居までの時間がある場合は、待機期間中に必要なサービス(訪問介護等の在宅サービス)についてパンフレット等を用いて情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で食事・掃除・洗濯等共同生活を送ることでお互いに助け合い、個々の考えや価値観に触れ理解し合える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際「今日の私・緊急対応ファイル」より近況を報告し、家族の話に耳を傾け一緒に本人を支える環境作りに努めている。また月1回手紙と広報誌でホームでの生活の様子を伝えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話で交流を続けられるよう対応している。テレビ番組から出身地の話題やその日のニュースを通して馴染の場所や人を思い出していただけるよう努めている。	コロナ禍以前は、家族と馴染みの店に食事に行ったり、馴染みの場所にドライブで出掛けていた。入居者との日常会話では、行ってみたい所や会いたい人などの話題も出ており、自宅に帰りたいたと話す入居者もいる。家族や友人とは、電話や手紙で交流を続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でカラオケを熱唱し、テレビや散歩を楽しむことで交流している。職員が利用者同士の関係を把握し、孤立しないように関わり、支え合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報の提供等をおこない支援に努めている。ご逝去された後も運営推進会の役員としてご協力いただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々会話の中から思いや希望を把握し言葉で表現することが難しい方については表情や反応を見ながら、家族の意向も伺いケアプランに反映させ、思いに添えるよう努めている。	職員はケアの実践の中で、タブレットに入居者のつぶやきや様子を入力している。その情報が2時間単位で、一人ひとりの「ケース記録」に反映されている。また、サービス計画書には「私の声」として記載され、介護計画を作成する際の大切な情報源になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活状況を伺い情報として共有して、ケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を個別に記録(今日の私)し情報共有すると共にカンファレンスで話し合い現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス内容を毎日チェック、日々情報を共有し、毎月カンファレンスで話し合いケアに活かしている。また本人や家族の意向、主治医と連携を図りより良い介護計画作成となるよう努めている。	3ヶ月毎のサービス計画の見直しの際に、家族から要望を聞いている。サービス内容の実施状況を毎日「○」「×」でチェックし、それらを踏まえて毎月のカンファレンスの場で話し合い、達成状況を確認している。常勤の看護師の意見も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌(今日の私)に個人の様子を記録する他に、スタッフ間で連絡ノートを活用し情報の共有に努め介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態・状況に合わせ随時モニタリングをおこない、介護計画を作成、その方の希望に沿った外出計画も立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回地域のサロンへの外出や近隣スーパーへの買い物を通し、社会との交流を図りながら楽しんでいただいている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点で本人、家族と相談し適切な医療が受けられるよう支援している。24時間対応可能な往診クリニックと連携を図っているが、専門的な受診が必要な場合は、家族と相談し対応している。	全入居者が、2つの協力医療機関のどちらかをかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。かかりつけ医とは、24時間対応の連携体制を整えている。看護師が常勤して健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状況と違いが見られた際は常勤看護師伝え、様子を把握し適切な看護や医療を受けられるよう協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、緊急対応ファイルを用いて様子や経過を情報提供している。入院中の状況も家族や面会を通して把握。退院にあたり、今後の生活について情報をいただき、ケアの参考にしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期の方針について説明。家族、主治医、職員を交えてサービス担当者会議を実施。ホームでできることを説明。本人、家族の意向を伺い、主治医と連携し、終末期の介護や看取りもおこなっている。	入居時に「看取りに関する指針」を家族に説明し同意を得ている。終末期に入った際には、医師、看護師、職員で話し合い、看取り介護のための介護計画を作成し、家族に説明し改めて同意を得ている。家族が面会しやすいよう、玄関に近い部屋に移動するなど配慮している。入職時には、かかりつけ医の資料を用い研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルを参考にした勉強会を実施。また看護師の指導の下、緊急時に備えている。仙台市消防局救急科より要請があった「緊急連絡シート」を作成し備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を実施している。毎月11日を防災の日とし、備品点検をしている。また地理的な制約もあるが隣接の鶴が丘地区住民と協力体制を築いている。	年2回、夜間想定避難訓練を実施している。夜間帯は各ユニット1人体制のため、運営推進会議メンバーを中心に地域住民の見守りについて要請し連携を図りながら取り組んでいる。今年はコロナ対策に力を入れ感染予防を徹底している。年2回、業者が設備点検を行い、備蓄は5日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。プライバシー保護については年間研修計画の中に取り入れ勉強の機会を設けている。呼び方については本人の意向に添って苗字や名前で呼んでいる。	プライバシーの確保の研修は身体拘束廃止についての研修会と一緒に開催している。また、今年度、仙台市がWEBを使った研修会を開催し、事業所としても参加した。入居者が笑顔で過ごせ、不快な思いをしないよう、一人ひとりに合わせた声掛けや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いを傾聴すると共にケアプランに反映。言葉で表現することが難しい方については表情や様子から思いをくみ取り自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活において一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容サービスを利用しているが自粛要請の期間は、ホーム職員が対応。日々衛生保持に努めるとともに季節に応じた身だしなみやおしゃれを楽しむことができるような支援をおこなっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や好みを取り入れた食事を一緒に調理し食事を楽しんでいる。	献立は、法人の栄養士が作成し、各ユニット毎に配属された専任の調理員が調理をしている。法人が作成した献立を基に、ユニット毎に収穫した野菜を穫り入れるなどアレンジもしている。楽しい食事ができるよう企画し、誕生会やセレクトメニューなども毎月実施している。コロナ対策として、食事は横並びにするなど工夫し感染予防に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、栄養バランスの摂れた食事を提供している。また、水分量を把握し好みに応じた飲み物を提供。むせ込みが見られる方にはトロミを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を保っている。また治療が必要な時は往診歯科による診療で助言をいただいている。その方に合った舌ブラシ、360°磨ける歯ブラシを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握。タイミングをみてトイレ誘導をおこない生活のリズムを整えている。その方の動作や表情、しぐさから状況を把握し支援をおこなっている。	トイレ表示を大きくし、自立を促すため、タイミングを見ながらさりげない声掛けを行っている。夜間は最先端のロボットテクノロジーの見守り機器を活用し、居室での動きを把握し支援に繋げている。便秘予防には食事に乳製品を摂り入れ対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の運動や水分の摂取状況等を把握し快適な排便に繋がるよう努めている。管理栄養士の指導の下、食物繊維を多く含むメニューを取り入れている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望にて入浴が出来るよう対応している。入浴を拒む人は声かけを工夫しながらタイミングを見て声かけている。また菖蒲湯やゆず湯など季節の楽しみも取り入れている。	入浴は週2回から3回を基本に、湯はかけ流しである。改修工事を行いリフト浴の機器が導入され、重度化した状態でも入浴を楽しめるようになった。菖蒲湯、バラ湯、ゆず湯など季節湯も楽しんでいる。拒否がある場合は、入浴の声掛けやタイミングを工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間は特に定めていない。夜間帯は間接照明にて安眠できるように配慮している。また不眠傾向の方に対しては日中の過ごし方を見直し、安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について理解できるよう処方箋をファイリングしている。また日付け名前を読み合わせし、再確認の上内服していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々個別アクティビティをおこない一人ひとりと接する時間を多く取れるように努めている。今年は新型コロナウイルス感染防止対策の為、ホーム内行事を主とし気分転換につなげている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナウイルス感染防止対策の為、今まで行っていたを外出支援を控えている。	例年は、年間計画を立て外出していたが、コロナ禍で遠方への外出はできなくなった。気分転換にホーム周辺を散歩したり、裏庭で野菜を育てたり、ベランダで外気浴をしている。収穫した旬の野菜を食事に摂り入れみんな楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方については家族の同意をいただいた上でホームで預り毎月収支報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月家族へお便りを書いたり、電話にて親族や友人とやり取りが出来るよう支援している。家族から電話をいただく事もよくある。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は皆がゆったりとくつろげるように工夫している。また整理整頓を心がけ季節を感じることができるような作品を手作りし掲示している。和やかに生活が楽しめるよう工夫している。	コロナ禍を考慮し、共用スペースでは「密にならない」「対面にならない」「1時間に1回の空気の入れ替え」「加湿」の4点にこだわって取組んでいる。リビングや通路にはソファが置かれ、みんなで過ごしたり、一人で過ごせる居場所も設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて入居者同士がくつろいだりコミュニケーションの場として過ごせるようソファ・テーブルを配置している。コロナ禍により向かい合わないような席の配置工夫をおこなっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく安心して過ごせるよう使い慣れた馴染みの鏡や化粧品家族の写真を飾り、回想法に役立てている。	居室のレイアウトは、一人ひとりの状態や車いす使用等に配慮しながらベッドなど配置している。基本的には持ち込みに制限はなく、入居者は馴染みのテレビやソファを持ち込み、自分の部屋としてゆったり過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室などは大きな文字で分かりやすく表記している。また、車椅子の方も手すりに沿って動くことができるように配慮している。		